

令和 6 年度
高大連携活動報告

高大連携ワークショップ（11月8日）

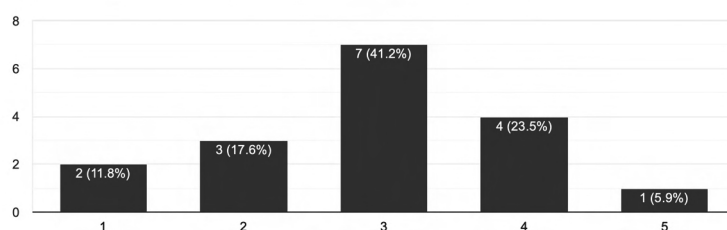
2024年11月8日(金)16:10-17:40に、國學院高校の現2年生を対象とした高大連携ワークショップを國學院大學の1201教室にて実施した。参加人数は、18人であった。

これまでも高大連携授業の一環として「リーダーシップ基礎」の授業や「ゼミ」体験・見学をしており、今回の高大連携ワークショップはその第3弾にあたる。今回のワークショップは「高校生のうちから『大学での学び』や『大学生像』を体験してもらい、進路選択に活かしてもらう」ことを目的に今までの学生生活を振り返り、自分自身の興味や大学で学びたいことについて考えた。



このワークショップは3～4人1組のグループワークを主体とし、グループに1名の大学生アシスタントをローテーションしながらつけた。高校生は自身の経験を振り返りながら活発に意見交換を行いながら、大学生ともコミュニケーションをとることで「大学」に関する知見を広げていた。ワークショップ終了後に実施したアンケート結果から、参加前後で國學院大學経済学部への進学希望度の上昇が確認できた。問3が参加前、問4が参加後のグラフである。

問3 一連の高大連携授業（リーダーシップ基礎、...から5で答えてください（※1が最低、5が最高）
17件の回答



問4 一連の高大連携授業に参加した「後」の、現...から5で答えてください（※1が最低、5が最高）
17件の回答



後記（感想）

高校生が、大学生活を楽しんでいる先輩の姿を見ることで、進学に対する不安解消につながっていると感じた。直接雰囲気を感じることでできる機会を大切にして、國學院大學への進学希望者が増えることを期待する。
(経済学科4年 富岡姫菜)

高大連携授業（リーダーシップ基礎・12月16日）

12月16日、毎週月曜日5・6限に行われている「リーダーシップ基礎」の授業に國學院高校1年生38名が参加した。

この授業では受講生に積極的な発言や能動的な行為を求めたアクティブ・ラーニング型の授業であり、今回は「ファシリテーションの実践」を実施した。

ファシリテーションとは中立的な立場でチームのプロセスを管理し、チームワークを引き出し、チームの成果が最大となるよう支援することである。学んだスキルをもとに、高校生と大学生が協働し、様々なテーマに沿って意見を出し合い、まとめるグループワークを行った。

ファシリテーターのスキルの前提となる3つのスタンス

1. 様々な声を聞く「中立」スタンス
ポジティブ、ネガティブ両方の意見を拾い上げる。
あまり話していない人にも光を当てる。
2. 「教えてください」スタンス
全てを理解していなくても良い。
思い込みを捨てて、謙虚な気持ちで意見を聞く。
3. 「俯瞰視」スタンス
議論の内容を見える化して整理する。
一歩引いて議論の流れを軌道修正する。

47



引き出す効果

■ ファシリテーターが問いかけやいい受け止めをして引き出すことにより、

- － 十分に意見を言ってもらう
- － 十分に他の人に聞きとめてもらう
- － 多数の意見・アイデアを得る
- － 討議への参加度を上げる

といった効果があります

最初は緊張していた高校生もグループワークなどを通して主体的に授業に参加し、大学生は今まで学んだスキルをこうした貴重な場で発揮することで自己の理解度を再確認し、さらに自分自身のスキルを向上させる姿が印象的であった。



後記（感想）

高校生、大学生と一緒に授業を受け、年齢関係なくお互い刺激を受け合い、それを自分自身の学びへと繋げている姿を見た時、学びの最大化のサポートが出来ていることにFAとして

とても喜びとやりがいを感じた。

彼らには、是非この貴重な体験を今後の活動に活かしてほしいと思う。

（経営学科2年 上川合伽織）

高大連携キャンパスツアー（12月23日）

2024年12月23日月曜日の4限（14:30～16:00）に、國學院高校の現1年生を対象として、大学生活を体験する高大連携のキャンパスツアーを実施した。参加者は38名で、渋谷キャンパスの教室や神殿、図書館などを学生アシスタントとともに周り、最後には学食体験を実施した。メモリアルレストランのバラエティー豊かなメニューを、学生アシスタントとともに交流をしつつ、堪能した。

その後、高大連携授業の一貫として、5限（16:10～17:40）に実施された「ビジネスゲーム」の授業受講と併せて、大学生活への理解とイメージを深めた。



初めて訪れた大学のキャンパスを興味深く見学していた姿が非常に印象的であった。広く、開放的な大学の良さと、なかなかイメージしにくかった大学生活に対する期待感を、大学生との交流を経て与えることができたと思う。



後記（感想）

高校生のうちから大学生活を大学生とともに体験できる貴重な機会になったと思う。大学生にとっても、なかなか関わることのない高校生と交流でき、良い機会になったと思う。

今回のキャンパスツアーや学食体験を通して、大学生活に少しでも期待感を持ってもらえるような機会になってもらえたらと思う。

（経営学科2年 北野 大地）

高大連携授業 (ビジネスゲーム 12月16日)

12月16日、毎週月曜日5限に行われている「ビジネスゲーム」の授業に、國學院高校の1年生計38名が参加した。グループワーク中心のアクティブ・ラーニング授業を通して、実際の企業で用いられる経営手法を楽しく学んでもらえた。

第12回となる今回の授業では、「製品ライフサイクル／マーケティングミックス」を取り扱った。これまでの授業内容を踏まえ、市場に新規参入するためのフレームワークを学び、自社の製品・サービスを顧客に効果的に販売する為にはどうするかを議論した。前回の授業時に大学生が作成したペルソナをもとに、ターゲットのニーズを勘案し大学生が検討中の新製品に対して高校生ならではの視点を活かして意見交換をしていた。

ビジネスゲーム 第12回

商品開発をしよう

③製品ライフサイクル、
マーケティング・ミックス

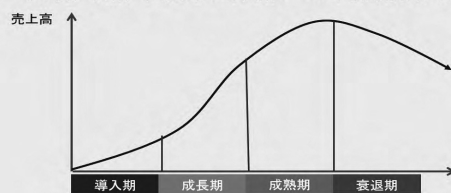


今回の授業において、高校生も大学生も関係なく活発な議論が行われていたことが印象に残った。高校生は普段の授業とは異なる形式に興味を持ち、積極的に取り組んでいた。また大学生は高校生が発言を行いやすいようにグループを引っ張っている姿が多く見受けられた。

製品ライフサイクルとは

- すべての製品・サービスは、ライフサイクルを持っている。
- 製品は、誕生から廃棄までのサイクルを持ち、企業はその段階ごとに製品を競争環境などに応じて管理をする

製品ライフサイクルという用語で使用されてきた。
→その後、事業、市場あるいは産業レベルでも適用されている。



ワーク②：商品開発の方向性を決めよう



- 4P分析・4C分析に(今回の事例を除く)、
①既存の製品・サービスの特徴
②自分たちの製品・サービスの特徴
を当てはめ、シートに記入してください。
⇒現時点で考えていない/曖昧なものも、なるべく具体化してみましょう。
(ワーク①とは関係がなくて構いません)
- 1をもとに、自分たちの提案する製品・サービスの
具体化の方向性を考えてください。
(この時間では、方向性を考えるのみまでにとどめ、具体化
まではできないので、残りは宿題でやってもらいます)

1. 目安:
15~20分

2. 目安:
5分

- 大学生の中でファシリテーター、タイムキーパーを決めてください。
(ワークごとに役割を変えてみてください。)

後記(感想)

この高大連携授業を通して、普段とは違う環境下においても初対面の学生達が楽しく協力し合いながら授業に取り組んでいる姿を見ることができ、高校生・大学生ともに新たな価値観を得る事ができる良い機会になっていたのではないかと感じる。授業運営側においても学びのある貴重な場となった。

この授業が、高校生にとってアクティブ・ラーニング授業の存在と楽しさを知り、今後このような形態の授業を履修したいと考える1つのきっかけになればと願う。

(経営学科2年 阿部心香)

令和 6 年度・國學院高校との高大連携授業を振り返って

令和 6 年度担当教員 中田有祐

経済学部では、國學院高校との「高大連携授業」を行っています。この取り組みでは、単発の模擬授業等ではなく、より長期的に高校生に大学の授業等に参加してもらい、さまざまな角度から大学で学ぶ意義を考えてもらえるような日程・内容構成をとっています。

この取り組みの目的は、附属高校と大学との関係を活かした長期の取り組みを行うことで、経済学部を志向する國學院高校の学生を増やすとともに、高校、大学、さらには法人全体としてのブランド力強化に繋げることにあります。

高大連携授業は、高校 1 年次に以下の①へ参加し、さらに 2 年次に②と③までのイベントへ参加する形で行われます。本年度の実施日程・内容は次のとおりです。

- | |
|--|
| ① 学部専門科目の授業への参加（対象：高校 1 年生、令和 6 年 12 月）
② 専門演習（ゼミ）への参加（対象：高校 2 年生、令和 6 年 6 月）
③ キャリアを考えるワークショップの開催（対象：高校 2 年生、令和 6 年 11 月） |
|--|

※イベントの詳細は、各イベントの報告書をご参照ください。

本年度においても、各イベントの準備・実施は概ねスムーズに行われ、また参加者に対するアンケート結果も極めて好評でした。高校からもこの取り組みを継続したい旨のご要望を頂いており、次年度も引き続き力を入れて取り組んでいくことが望まれます。

※専門演習への参加のみ、報告書を別途作成しておりません。概要を以下に記します。

令和 6 年 6 月 13 日から 6 月 21 日にかけて、高校生 36 名が 14 ゼミに参加しました。1 名につき 2 ゼミ（経済分野と経営分野 1 ゼミずつ）に参加する形を取り、ゼミで学ぶ意義、ゼミでの学び方、分野ごとのゼミの内容を体感して頂きました。
--